

## 「日吉津小学校グラウンドの芝生化」

～緑は人を呼ぶ、未来を担うこどもたちへの贈り物～

日吉津小学校芝生化推進隊

隊長 三嶋 真樹

鳥取県西部の米子市に囲まれた小さな村。北に雄大な日本海、東に大山を眺め、西側には日野川が流れている自然環境に恵まれたロケーションに約3,500人が暮らしているのが、『オラが村、日吉津村』です。村のほぼ中心に公共施設が集約し、そこに日吉津小学校があります。児童数は229名。そのグラウンドは、学校に通う子どもはもちろん、スポーツ少年団、老人会、球技大会、盆踊り大会、村民運動会など、村民が広く利用する言わば「村民のグラウンド」でもあります。



【ポット苗の植付け】

このグラウンドを芝生化しようと平成22年5月に小学生の親5人の有志が集まって「日吉津小学校芝生化推進隊 通称 GAP」が結成されました。冒頭のサブタイトルは、村長に芝生化の要望書を出すため四十くらいのメンバーが、「一杯やる」こと以外はまるで高校生の部活ノリでワイワイやりながら考えたものです。

既に芝生化されている日吉津保育所での子どもたちの様子や鳥取県が作成した芝生化のビデオを見て「子どもたちの為にも緑に包まれたグラウンドで遊ばせたい！」と奮い立ちました。

新しいことを始めようとすると賛同と共に必ず反対の声も挙がります。私たちの芝生化要望書は小さな村に少なからず波紋を広げることになりました。最も多かった反対意見は、「維持管理を一部の人に任せるんでしょ？」「永続的に管理していけないよ！」という維持管理への疑問でした。それに対して私たちは、推進隊が中心になり、自主的に参加頂けるボランティアさんと一緒に維持管理を進めると説明し、理解を求めました。

結成から2年、私たちの願いは日吉津村議会のテーブルに載り、賛成多数で可決、スプリンクラーや造成工事を経て本年6月24日、ついに芝生の植付けが実現しました。植付け当日には、老若男女およそ250名の皆さんに集まっていただき、盛大に実施する事が出来ました。その様子は、先が見えず何度も諦めそうになった時期を思うと非常に感慨深いものがあり、一生記憶に残ることでしょう。



【芝刈り】

8月に入り、いよいよ維持管理作業が始まりました。推進隊のメンバーは14名に増え、ボランティアスタッフも70名を超えました。本当にありがたいことです。作業は、主に日曜日の朝に2時間程度行います。

推進隊がリーダーとなり、ボランティアさんを合わせ一回につき6名くらいで予定していましたが、蓋を開けてみると子どもたちも一緒に来てくれて、多いときには10名を超えています。これって、本当に素敵な事だと思いませんか？作業自体が、コミュニケーションの場となり、今まで話した事なかった人とも仲良くなれる。そんな場を提供できるのです。芝が生長するとき、横へ横へ手を伸ばして繋がっていきます。同じように住民同士の繋がりが、日吉津小学校の芝生を中心に広がっていきたくしています。

以前から推進隊のみならず「日本一の芝生を作ろう！」と言っていました。日本一きれいな芝生には、ならないかもしれませんが、ただ、「日本一、住民が愛する芝生」になれば良いと願っています。是非一度、見に来てください。



## 芝生化レポート

### 弥生公園(鳥取市)

報告:(財)鳥取市公園・スポーツ施設協会  
新 育夫

鳥取駅近くの繁華街に立地する弥生公園は、平成18年に中心市街地活性化のためにリニューアルされた、鳥取市が管理する都市公園として芝生化した公園です。

公園面積は1,500㎡で、その内芝生化が可能な700㎡をすべて芝生化した広場です。芝生管理は、周辺住民の方との協働による管理で、週1回の芝刈、月1回の施肥など周辺住民の方が、材料、機材などの提供、芝刈機のメンテナンスなどは公園管理者が行っております。



芝刈機を公園に常備し、いつでも芝刈りが出来る様にすることで、住民の方が管理しやすい様にしてあります。今後も、住民の方とのコミュニケーションを大切にして、協働での維持管理を続けていきたいと思っています。



# 鳥取方式®の芝生 維持管理カレンダー

ティフトンの芝生(冬シバを9月下旬にオーバーシーディングした場合)

	9月			10月		11月		12月	
	芝刈り	施肥*	播種**	芝刈り	施肥*	芝刈り	施肥*	芝刈り	施肥*
第1週	1回(4cm)	1回 (30kg)	1回 (40kg)	1回 (5cm)	1回 (30kg)	1回	1回 (30kg)	1回	1回 (20kg)
第2週	2回(3cm)								
第3週	1回(2.5cm)								
第4週									

※ 施肥は 1,000 m<sup>2</sup>あたりの標準散布量(14-14-14%化成肥料)

※※ 播種量は 1,000 m<sup>2</sup>あたりの標準散布量

## 【管理のポイント】

### 9月上旬・中旬(冬シバ播種前の芝刈り)

ウインターオーバーシーディング(WOS)を成功させるには、まず最初に冬シバ種子の発芽個体数を確保することが必要です。ティフトンの生育が良く、しっかりしたターフが形成されている場合には、播種の3週間ほど前から芝刈りを多くし、刈高を少しずつ低くして、最終的には25mm程度の低刈りを行うことによって地面に接触する冬シバ種子を多くすることができます。但し、ポット苗移植1年目でターフが薄く、地面が見えるような芝生では通常の芝刈り(週1回、地上4cm)で十分です。なお、踏圧などによって芝生がなくなっている場所や水溜りの部分は播種前にマサ土を補充し、播種後にもう一度マサ土を散布(種子が隠れる程度~1cm)すると冬シバの発芽個体数が確保できます。

### 9月下旬(冬シバ播種と播種後の散水)

WOSのための冬シバとしては、発芽と初期の生育が速く、翌春の夏シバへの移行(トランジション)が容易なインターミディエイトライグラスを推奨します。なお、建物や樹木の日陰になる面積が大きい場合や利用が激しく冬シバが擦り切れることが予測される場合についての対応はNPOグリーンスポーツ鳥取に問い合わせてください。日最高気温が30℃以下(9月中旬)になって運動会などの芝生に厳しい行事が終わればできるだけ早期に播種してください。気温が高いほど発芽日数が短く生長も速いので播種後の養生期間を短く(約3週間)することができます。播種時期を早くするほど気温が高く、播種された種子が乾燥し易くなるので散水は1日1回以上(可能ならば1日2回~3回)行ってください。

### 10月(冬シバ播種直後の養生と最初の芝刈り)

冬シバ(インターミディエイトライグラス)の種子は一粒2mgで非常に小さく、また発芽直後の幼植物は柔らかく踏圧や擦り切れに弱いので、播種後少なくとも3週間以上は養生期間として利用時間・人数を減らす必要があります。播種後しばらくは芝刈りを行わず、3週間経過後葉が2枚~3枚出たところで、刈り刃をやや高め(地上5cm)に設定して最初の芝刈りを行って下さい。養生期間中に、刈り刃の研磨・交換と芝刈り機の点検(代理店に依頼)をしておくと、柔らかい冬シバの芝刈りがし易くなります。順調に冬シバを生長させて利用に耐える芝生に育てるために、施肥と散水は十分に行って下さい。なお、水分不足や踏圧損傷などによって冬シバ密度が不足した部分には、できるだけ早期(10月末まで)に2回目の播種を行って下さい。

### 11月~12月(低温期の冬シバの管理)

気温の低下に伴って冬シバの生長も遅くなるので、芝刈りの間隔はそれに合わせて長くしてよいが、刈り刃の高さは常時一定(地上4cm)として下さい。施肥は原則として月1回実施し、生育量が小さくなる冬は施肥量を少なくしても構いません。11月以降の散水は原則として不要ですが、表日本などで降水量が極度に少ない場合は適宜散水して下さい。



## 芝生化視察ツアーを体験して (社)鳥取青年会議所

思わず走りたくなる。寝転びたくなる。大人になった今でも、芝生に触れると無意識に体が反応してしまう。お話を伺い、幼少期にもっと身近に芝生に触れて生活できていたら、空を眺める時間は1秒2秒長く、今より1歩2歩速く走れているかもしれないと思い、既に芝生化してある学び舎に通う子供達を羨ましく思いました。〔井上正弘〕

# No Grass No Future!

一緒に芝生化に取り組む仲間である  
会員を募集しています!!



- グリーンスポーツ鳥取が会員の疑問に直接回答!
- 会員間で事例を共有!
- 掲示板で全国の会員間の情報交換・交流!

お申し込みは下記URLへ



【芝生化視察ツアーの様子】

今回グリーンスポーツ鳥取の視察ツアーを体験させていただき、芝生に対する考え方ががらりと変わりました。まず、芝生には管理能力に応じてレベルがあり、それによって方法も全く異なること。芝生上で自然に裸足で走り回ることによる子供たちの運動能力の開花など、視察を受けてみなければわからない考え方と重要性を学びました。〔野村亮介〕

## ■ お問い合わせ先 ■

鳥取方式の芝生化全国サポートネットワーク事務局 (鳥取県未来づくり推進局鳥取力創造課内)

電話: 0857-26-7248 E-mail: office@tottoristyle-shibafu.org

URL: <http://www.tottoristyle-shibafu.org/network/>

※「鳥取方式®」はNPO法人グリーンスポーツ鳥取の登録商標です